

(2012年度)

## 2 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は16ページ、4問である。)

### 受験についての注意

1. 監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 携帯電話・PHSの電源は切ること。
3. 試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机の上に置くこと。
4. 監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
7. マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
8. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
10. 試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1

平安時代のある時期の日本の内外の状況を記した以下の文章を読んで後の問いに答えなさい。ただし、文章中の下線のある語句(1)~(40)についてはその一部に誤りがあるものが存在し、結果として文章全体としても歴史的に正しくないものになっている。

我が国と海外との関係に目を向けると、おりしも874年に遣唐大使に任じられた菅原道真<sup>(1)</sup>は、遣唐使の中止を建議し、結局これ以後の遣唐使派遣は行われなかった<sup>(2)</sup>。この当時、唐は既に9世紀の安史の乱以降疲弊しており、少なからぬ海外渡航の危険に比較して、<sup>(3)</sup>実際の国益となる<sup>(3)</sup>ところが乏しいというのが理由であったとされている。

その一方、中国では唐が908年に滅亡し、しばらく五代の諸王朝が続いたのち、宋(北宋と南宋)による統一が、南宋が遼に滅ぼされるまで約370年間続いた。日本は宋と正式な国交をひらかなかつたが、民間の往来は頻繁で、<sup>(4)</sup>下関や山口を中心とした交易や僧の往来などもあって大陸文化の交流は、前代に劣らず盛んであったといえる。<sup>(5)</sup>

これ以前の飛鳥時代より日本と交流のあった中国南東部の渤海は、10世紀の前半には新興の金(契丹)に滅ぼされた。<sup>(10)</sup>また、朝鮮半島では、新羅が10世紀初めに興り、のちに高麗を滅ぼして半島の統一に成功したものの、日本との正式な国交は開かれなかつた。<sup>(11)</sup><sup>(12)</sup><sup>(13)</sup><sup>(14)</sup><sup>(15)</sup><sup>(16)</sup>

国内では、時代の早い時期に桓武天皇や嵯峨天皇が国政を主導し、藤原氏などの貴族をおさえていたが、それらの中から藤原氏北家が天皇家との絆を強め徐々に台頭してきた。嵯峨天皇の時代に、藤原氏北家の冬継は要職である蔵人頭となり、その子である藤原良房は、840年の<sup>(17)</sup>承和の変<sup>(18)</sup>で橘逸勢や伴善男らを排除して一層勢力を強めた。<sup>(19)</sup><sup>(20)</sup><sup>(21)</sup><sup>(22)</sup>

その後、清和天皇が即位すると、良房は<sup>(23)</sup>臣下として初めて<sup>(24)</sup>摂政となり、856年の<sup>(25)</sup>応天門の変<sup>(26)</sup>で伴氏や源氏の排斥に成功した。彼の後継者であり太政大臣となっていた藤原基経は、彼の支援を受け即位した<sup>(27)</sup>光厳天皇<sup>(28)</sup>により882年に初めて関白に任じられた。基経の権勢は以後も続き、朱雀天皇が即位のときに出した勅書に抗議してこれを<sup>(29)</sup>889年に<sup>(30)</sup>撤回させた。この一連の政治的混乱を<sup>(31)</sup>阿諛の紛議とよぶ。

基経の死後、宇多天皇は菅原道真を重用して藤原氏の勢力排除を試みたが、次の醍醐天皇(32)の時代に、藤原忠平の讒言で道真は九州大宰府に左遷されその地で没した(33)。醍醐天皇(34)の時代は、次の村上天皇(35)の時代と続けて天皇親政が行われた期間として、延喜・天曆の治(36)とよばれるが、実際には摂政・関白をつとめた藤原忠平らが権勢をふるい、政治上の実権を掌握していた。そうした藤原氏への権力集中が決定的になるのは、961年に起きた安和の変(37)で、左大臣の紀夏井(38)が排斥され主だった反藤原勢力は衰退した。このように、藤原氏一族が政治的な要職に集中した10世紀後半から11世紀なかばごろの政治を摂関政治とよぶ。(39)  
(40)

問1 前掲した平安時代に関連する文章において、下線部(1)～(40)の語句には、歴史的に見て正しいものと誤ったものが混在している。ここで、下線部のある語句について正しいものを○、誤っているものを×で表記すると、連続する語句(1)・(2)、(3)・(4)などの関係は、以下の例のいずれかとなる。

A ○○ B ○× C ×○ D ××

イ) 連続する下線部の語句(1)・(2)の関係について、上の例A～Dから選びなさい。(以下同様とする)

- ロ) 語句(3)・(4)について
- ハ) 語句(5)・(6)について
- ニ) 語句(7)・(8)について
- ホ) 語句(9)・(10)について
- ヘ) 語句(11)・(12)について
- ト) 語句(13)・(14)について
- チ) 語句(15)・(16)について
- リ) 語句(17)・(18)について
- ヌ) 語句(19)・(20)について
- ル) 語句(21)・(22)について
- ヲ) 語句(23)・(24)について
- ワ) 語句(25)・(26)について
- カ) 語句(27)・(28)について

- ヨ) 語句(29)・(30)について
- タ) 語句(31)・(32)について
- レ) 語句(33)・(34)について
- ソ) 語句(35)・(36)について
- ツ) 語句(37)・(38)について
- ネ) 語句(39)・(40)について

**問2** 前掲した文章に関連した下記の問いに答えなさい。ただし、前掲した文章の誤りを正し、歴史的に正しい文章にして解答すること。

A) 最初の遣唐使・犬上御田歙は西暦何年に派遣されたか。

- ① 625年    ② 628年    ③ 630年    ④ 632年    ⑤ 635年

B) 平安時代末期に日宋貿易にもっとも積極的な立場をとった人物は誰か。

- ① 後白河法皇    ② 平清盛    ③ 源義平    ④ 藤原通憲
- ⑤ 九条兼実

C) 蔵人の職務内容にもっとも近いと考えられるものは何か。

- ① 要人保護    ② 軍務    ③ 財務管理    ④ 有力子弟の高等教育
- ⑤ 秘書や文書管理

D) 菅原道真と深く関係するものは何か。

- ① 類聚国史    ② 清慎公記    ③ 西宮記    ④ 往生要集
- ⑤ 水左記

E) 撰関家に関連して、鎌倉時代以後のいわゆる五撰家に該当しないものはどれか。

- ① 一条家    ② 二条家    ③ 三条家    ④ 九条家    ⑤ 近衛家

- 2 次の表は鎌倉仏教の各宗派(I～VI)の主要事項を一覧表にまとめたものであるが、ここに示した開祖の生没年及び開宗したとされる年を参考にして、各々の事項について下の各問に答えて表を完成しなさい。

	開祖生没年	開宗年	(1)	(2)	(3)	(4)
I	1133 - 1212	1175				
II	1141 - 1215	1191				
III	1173 - 1262	1224				
IV	1200 - 1253	1227				
V	1222 - 1282	1253				
VI	1239 - 1289	1274				

問1 (1)の項に入る開祖に関する事績について、もっとも適切なものを下から選びなさい。

- ① 阿弥陀仏を信仰し、念仏を唱えさえすれば極楽往生が約束されると説き、さらに煩惱の深い人間こそが阿弥陀仏の救いの対象であるという教えを説いた。
- ② 諸国を巡って、難路を開拓し、橋を架け、井戸を掘り、荒野に遺棄された死骸を埋葬するなどの社会事業を實踐し、南無阿弥陀仏の名号を唱え、念仏行を教えた。
- ③ 南無妙法蓮華經という題目を一心に唱えさえすれば即身成仏できると説き、「念仏無間、禪天魔、真言亡国、律国賊」と他宗を激しく攻撃し、戦闘的な折伏を行った。
- ④ 信心の有無、浄不浄を問わず、誰でも極楽往生できると説き、神社信仰もとりにいれて、跳躍乱舞しながら念仏を唱えるなどして下層民衆の心をとらえた。
- ⑤ 易行、他力の教えが優勢な状況の中で、ひたすら坐禅することによって悟りを開くという厳しい自力救済の教えを説いた。
- ⑥ 衆生救済を誓った阿弥陀仏を信じて、南無阿弥陀仏と唱えれば、誰でも

極楽浄土に往生できると悟り、専修念仏の教えを説いた。

- ⑦ 阿弥陀仏の極楽浄土が広く信仰されるなか、多数の経論を引用して地獄・極楽のありさまを示して、念仏往生の教えを説いた。
- ⑧ 坐禅を組み、師から与えられる問題を解決して、悟りに達しようとする教えを説いた。この厳しい修行のあり方が当時の武士の気風に相俟って、多くの武士に受容された。

問2 (2)の項に入る開祖の著書または関連する事柄を下から選びなさい。

- ① 正法眼蔵                      ② 教行信証                      ③ 往生要集
- ④ 元亨釈書                      ⑤ 御文                              ⑥ 立正安国論
- ⑦ 興禅護国論                      ⑧ 遊行上人                      ⑨ 選択本願念仏集
- ⑩ 類聚神祇本源

問3 (3)の項に入る各宗派の開祖に関係の深い史料をそれぞれ1つ下から選びなさい。

- ① 將軍家いささか御病惱。諸人奔走す。但し、ことなる御事なし、これもしくは去夜御淵酔の余気か。ここに葉上僧正より茶一盞を召し進じ、一卷の書を相副え献ぜしむ。茶の徳を誉むるところの書なり。
- ② 叢林勤学ノ行履ト云ハ如何。示云ク、只管打坐也。或ハ閣上、或ハ楼下ニシテ、常坐ヲイトナム。人ニ交リ物語ヲセズ、…常ニ独坐ヲ好ム也。(中略)示云く、学道ノ最要ハ、坐禅是第一也。
- ③ 若し先ず国土を安んじて現当を祈らんと欲せば、速かに情慮を廻らし、忿て対治を加えよ。…四方の賊来りて国を侵すの難なり。
- ④ 諸人の所望により、今日よりまた古迹を講ぜらる。また、食を儲け、兩廂の悲田に行き向かい、食を与う。ならびに十善戒を授く。
- ⑤ ただ往生極楽のタメニハ、南無阿弥陀仏と申て疑なく往生スルゾト思りテ申外ニハ、別の子細候はず。…皆決定して南無阿弥陀仏にて往生スルゾト思フ内ニ籠り候也。…只一こうに念仏すべし。
- ⑥ 聖申されしは「おほくの人にあいたりしかども、これぞ誠に念仏信じた

るものとおぼえし、余人は皆人を信じて法を信ずる事なきに、此俗は依法不依人のことはりをしりて、涅槃の禁戒に相叶へり。ありがたかりし事なり」とて、返す返すほめ給き。

- ⑦ 善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。…他力をたのみたてまつる悪人、もとも往生の正因なり、よりにて善人だにこそ往生すれまして悪人はと、仰さふらひき。
- ⑧ それ往生極楽の教行は、濁世末代の目足なり。道俗貴賤、誰か帰せざる者あらむや。ただし顯密の教法は、其の文、一にあらず。事理の業因、其の行惟れ多し。…是の故に、念仏の一門に依りて、聊か經論の要文を集む。

問4 (4)の項に入る各宗派の中心寺院を下から選びなさい。

- ① 神護寺      ② 建仁寺      ③ 久遠寺      ④ 天竜寺
- ⑤ 永平寺      ⑥ 知恩院      ⑦ 教王護国寺      ⑧ 醍醐寺
- ⑨ 清浄光寺      ⑩ 本願寺

3 桃山時代から江戸初期の絵画A～H図(都合上モノクロで表示してある)について、各設問に答えなさい。

A図



B図



C図



D図





E 图



F 图



G 图



H 图



問1 A～H図の作品名と作者名(有力説とされているものも含む)をそれぞれ語群から選びなさい。

1. (作品)

- |                |              |            |
|----------------|--------------|------------|
| (1) 松鷹図        | (2) 大徳寺方丈襖絵  | (3) 紅白梅図屏風 |
| (4) 唐獅子図屏風     | (5) 檜図屏風     | (6) 山水図屏風  |
| (7) 花下遊楽図屏風    | (8) 洛中洛外図屏風  | (9) 職人尽図屏風 |
| (10) 智積院襖絵(楓図) | (11) 風神雷神図屏風 | (12) 牡丹図   |
| (13) 夕顔棚納涼図屏風  | (14) 燕子花図屏風  | (15) 松林図屏風 |

2. (作者)(同じ番号を複数回選んでもよい。)

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| (1) 久隈守景  | (2) 海北友松  | (3) 狩野山楽  | (4) 尾形光琳  |
| (5) 狩野長信  | (6) 狩野吉信  | (7) 長谷川等伯 | (8) 狩野正信  |
| (9) 狩野秀頼  | (10) 土佐光信 | (11) 狩野永徳 | (12) 狩野探幽 |
| (13) 俵屋宗達 | (14) 狩野内膳 | (15) 狩野元信 |           |

問2 次の短文(1)～(8)は、それぞれA～H図の作品について述べたものである。各図にもっともふさわしいものを(1)～(8)の中から選びなさい。

- (1) 桃山時代の水墨画の屏風として代表的作品。16世紀末、作者50歳代半ば頃の作と推定されている。日本水墨画の自立を象徴する作品といわれる。東京国立博物館蔵。
- (2) 描かれている内容から慶長から元和にかけて(いくつかの説あり)の頃の作成と推定されている。背景に金碧を用いず、水墨画の技法が活かされている。一部が関東大震災時に焼失したが、残りが東京国立博物館に保管されている。
- (3) 豪快な気分の金碧画である。1590年頃の作とされ、作者は同年に没していることから、その完成にどれほど関わったかは不詳。桂宮家(旧八条宮家)伝来である。東京国立博物館に保管されている。

- (4) 桃山時代を代表する金碧画。落款・印章はないが、画風から、作者とされる人物のものであることが広く支持されている(孫が作者を証明した紙中極が書いてある)。毛利家伝来である。秀吉関係の城郭の障壁画を屏風に改装したとの説もとなえられている。
- (5) もと祥雲寺の障壁画群であった。祥雲寺は秀吉が長男鶴松の菩提寺として建立した寺である。障壁画全体は本図(部分)の作者とされている人物とその一門が描き、1593年頃に完成させたが、息子久蔵の作とされる別の部分も確認されている。
- (6) 大覚寺の襖絵群の一つ。作者は秀吉の小姓出身の人物。金箔地に題材が大きく描かれている。
- (7) 同名の作品は、1500年前後から江戸中期まで盛んに制作された。現存するものでも数十点ある。16世紀の作品は四点で本図の旧上杉家本は町田家本とともに特に有名である。
- (8) 1602年に八条宮智仁親王邸で描かれたもの。作者は近江の武士の出身。宋・元の水墨画に強く影響を受けた。

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

わたしは、1838(天保9)年に長州藩の下級武士の子として生まれた。長じて松下村塾に学び、1863(文久3)年に組織された(ア)の一員として尊王攘夷運動<sup>(a)</sup>に加わった。その後、1869(明治2)年には、藩主、(イ)の命により、欧米視察に向かうことになった。わたしとしては、国家的独立を果たすには軍事的独立が必要であると認識し、そのための国軍の模範を欧米列国の兵制に求めようと考えていた。

それが、国民皆兵制にもとづく近代的軍隊の創設に結びつく。もともと、その構想は、わたしと同じ長州藩出身で、大坂の(ウ)に学んだ(エ)によって抱かれていたが、わたしの外遊中に(エ)が暗殺されたため、わたしが引き継いだのである。その結果、1872(明治5)年11月に発布された(オ)にもとづき、翌年1月、徴兵令が公布され、統一的な兵制を整えるに至った。

このような経緯から、わたしは、もっぱら陸軍畑を歩むことになる。1873(明治6)年、初代の陸軍卿に就き、1877(明治10)年の(カ)では、作戦立案の最高責任者として加わり、これを鎮圧した。翌年、陸軍に(キ)を新設して統帥部を強化した。また、1882(明治15)年には、(ク)たる天皇に対する軍人の忠節を説き、軍人の政治関与を戒めるため、「(ケ)」を発布させた。さらには、1888(明治21)年、鎮台から師団へと、陸軍の編成を改めた。

わたしは、政治の表舞台でも、(コ)の助言を得つつ、地方制度改革にたずさわったほか、首相として重きをなした。最初の就任は、1889(明治22)年12月、(サ)内閣を継いだときである。(シ)が衆議院の過半数を占める第一議会に臨んだわたしは、国境としての(ス)とともに、その安全確保にとって密接な関係をもつ(セ)を防衛することが必要であると演説し、陸海軍の増強につながる予算を成立させた。

1898(明治31)年、わが国で初めての政党内閣が成立したものの、与党が分裂し、わずか4ヶ月余りで退陣を余儀なくされた。これに代わって成立したのが、わたしを首相とする内閣であった。この内閣では、政党の影響力が官僚に及ぶのを防ぐため、1899(明治32)年に(ソ)を改正し、翌年には、それが軍部に及ぶのを阻むため(タ)を定めた。さらに、台頭してきた政治・労働運動を抑える目的で、治安警察法を公布した。

わたしは、現役を退いてからも、(チ)の一人として隠然たる影響力を保持した。日露戦争当時に首相であった(ツ)、米騒動収束後に責任をとって内閣を総辞職することになった(テ)の後ろ楯となるなど、事あるごとに政局にかかわり続けた。その意味では、明治国家建設のため「一介の武弁」を自称しつつも、結局はそれにとどまらない役割を果たしたといえる。

問1 文中の空欄(ア)～(テ)に入るべき語句を次の語群から選びなさい。

[語群]

- |         |             |           |
|---------|-------------|-----------|
| ① 現御神   | ② 伊藤博文      | ③ 井上毅     |
| ④ 大村益次郎 | ⑤ 桂太郎       | ⑥ 咸宜園     |
| ⑦ 奇兵隊   | ⑧ 黒田清隆      | ⑨ 軍人訓誡    |
| ⑩ 軍人勅諭  | ⑪ 軍部大臣現役武官制 | ⑫ 軍令部     |
| ⑬ 元老    | ⑭ 国益線       | ⑮ 児玉源太郎   |
| ⑯ 西園寺公望 | ⑰ 佐賀の乱      | ⑱ 参謀本部    |
| ⑲ 主権線   | ⑳ シュタイン     | ㉑ 西南戦争    |
| ㉒ 俗党    | ㉓ 大元帥       | ㉔ 太政官     |
| ㉕ 徴発令   | ㉖ 徴兵告諭      | ㉗ 勅任官特別枠制 |
| ㉘ 適塾    | ㉙ 寺内正毅      | ㉚ 広沢真臣    |
| ㉛ 文官任用令 | ㉜ 民党        | ㉝ 毛利敬親    |
| ㉞ 毛利元親  | ㉟ モッセ       | ㊱ 利益線     |
| ㊲ 吏党    | ㊳ ロエスレル     | ㊴ 山本権兵衛   |
| ㊵ 遊撃隊   |             |           |

問2 下線部(a)に関する説明として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この運動は、尊王論と攘夷論を結びつけた幕末期水戸学の思想にもとづいているが、その思想は、藤田東湖や会沢安らによって唱えられた。
2. この運動に与する論者は、公武合体策を推進する老中の安藤信正が和宮降嫁を実現したことに強く反発した。
3. この運動は倒幕運動に発展することになるが、その要因としては、第2次長州征伐の前に薩長同盟が結ばれたことが大きい。
4. この運動は、長州藩の下級藩士を中心にして担われ、公家の間に支持者を獲得するまでには至らなかった。

**問3** 下線部(b)に関する説明として正しいものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. これにより、士族・平民の区別なく、満18歳に達した男子から選抜して2年間の兵役に服させることになった。
2. このなかには免除規定が設けられており、その対象には、官吏や学生、戸主とその相続人のほか、高額納税者が含まれていた。
3. これに反抗する農民は、「血税」の意味を誤解し、地租軽減を求めて反対一揆をおこした。
4. こののちの改正により兵役免除が全廃され、文字どおりの国民皆兵の原則が確立した。

**問4** 下線部(c)に関する説明として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. 鎮台と師団はともに、常備兵と予備役によって編成され、常設されるものとしては、最大の部隊単位であった。
2. 鎮台は、一揆や反乱など、国内の治安対策のため、当初は4箇所、のちに6箇所に置かれた。
3. 師団は、作戦を遂行するうえでの戦略単位であり、旅団、連隊、大隊などから構成されていた。
4. この編成替えには、緊張する日清関係などを背景に、対外戦争に備える意図が含まれていた。

問5 下線部(d)に関する説明として正しいものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この改革の一環として、府県制・郡制が定められたが、それはドイツの中央集権的・官僚制的な自治制度になっていた。
2. この改革にともない、市制・町村制が定められたが、それ以前に、地方制度に関する法整備は行われなかった。
3. この改革と並行して、町村の租税負担力を増加させるための地方改良運動が、内務省を中心に推進された。
4. こののち、第二次世界大戦後に地方自治法が制定されて地方分権・民主的自治権が確立するまで、地方制度は変更されなかった。

問6 下線部(e)に関する説明として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この内閣が政党内閣とよばれているのは、陸海軍大臣を除く閣僚のすべてが憲政党の党员によって占められていたからである。
2. この内閣は、首相と外相を兼務する大隈重信、内相の板垣退助が中心になっていたため、隈板内閣ともいわれた。
3. ここでの与党の分裂とは、いわゆる共和演説事件がきっかけとなって、旧自由党系の憲政本党と旧進歩党系の憲政党と分かれたことをいう。
4. こののち、わが国に政党内閣が出現するのは、立憲政友会の総裁で、平民宰相ともよばれた原敬の首相就任によってである。

問7 下線部(f)に関する説明として正しいものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この法律は、1890(明治23)年に制定された集会条例や集会及政社法などをもとにして作られた。
2. この法律では、労働者の団結権や争議権を制限したばかりではなく、女性や未成年者が政治集会に参加することも禁止していた。
3. この法律は、数次の改正を経たのち、1925(大正14)年の治安維持法の制定にともなって廃止された。
4. この法律の制定とともに、労働者を保護する工場法が制定されたが、資本家の反対により、実施されずに終わった。









